

第27回 音楽出版ビジネスと権利ビジネス/近年の世界の動き

講師 朝妻一郎氏

フジパシフィックミュージック 代表取締役会長

世界の音楽著作権ビジネスの状況に詳しい朝妻先生は、「ポール・マッカートニーとマイケル・ジャクソンは何故長者番付の上位にいるのか」を例にあげ、音楽著作権ビジネスとは何かを説明された後、音楽出版者の歴史や日米における著作権管理の状況と再編の動きについて解説された。

朝妻先生講演概要

朝妻氏は、日本の音楽出版事業の創設期から今日に至るまで、業界のリーダーとして活躍されてきたわが国音楽出版業界の重鎮の一人であります。朝妻氏のプロフィールをご覧になると分かるように若いときには音楽プロデューサーとして、わが国にそれまでにはなかった新しい音楽の創造と普及に尽力をされました。

また、プロフィールには掲載されていませんが、米国を中心とした外国曲のわが国への普及にも大きな貢献をされ、米国等の音楽出版ビジネスにも精通されている方でもあります。

今回の講演は、米国の有名なミュージカル楽曲である「There's No Business Like Show Business (ショウほど素敵な商売はない)」をもじって、「There's No Business Like Music Publishing (音楽出版ほど素敵な商売はない)」との言葉から始まりました。

その事例として、「ポール・マッカートニーとマイケル・ジャクソンは何故長者番付上位にいるのか」について説明をされました。その説明によると、ポール・マッカートニーは義父の、またマイケル・ジャクソンは、ポール・マッカートニーの助言によって、今まで得た資産を浪費するのではなく、それを投資に回して、今後安定的な収入を得たほうがいい、具体的には、長くヒットするであろう多くの楽曲の著作権を買っておいて、その権利を活用することで長く収入を得られるからということだったということです。マイケル・ジャクソンについては、ビートルズの多くの曲の著作権を購入したのは有名な話ですが、著作権収入によって、本人の人気の程度にかかわらず、兩人とも毎年納税者番付の上位にいるという話は大変興味深いものでした。

また、CD等のパッケージ販売や配信からの収入はどの国でも落ち込んでいる

のですが、日本、米国、英国、仏国及び独国の 5 カ国とも、著作権収入はおおむね横ばいであることを資料を示されながら説明されました。音楽著作権の管理・開発を行う音楽出版事業が、音楽産業の構造が変革していく中でも、安定的なビジネスであることが分かりました。

そのほか、音楽出版の歴史について説明があり、グーテンベルクの印刷術の発明により、楽譜の印刷が可能になったことが出発点であり、その後の音楽の伝達手段の変化により、音楽出版社の業務の範囲が大きく拡大していったことを説明されました。

最後に、わが国及び米国の著作権管理事業における著作権管理の現状と事業の再編や新規参入の状況について解説がありました。

【参加者のアンケートから】

参加者 119 名の内 66 名からアンケート回答があり、大半の方から「期待した内容である」「参考になる」との評価を頂きました。

- ・ 海外の音楽出版社の動向が知れてありがたかった。
- ・ 今後の著作権管理団体の動向について参考になった。
- ・ 世界的な流れが分かって面白かった。
- ・ ASCAP、BMI の成り立ちについて背景を知ることができたおかげでそれぞれの特徴を理解できた。

【セミナー会場の様子】



